

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校区は、祖父母、親世代も本校を卒業したという、三世同居家族の割合が高く、地域住民は、学校に協力的で地域を愛する土地柄である。

松葉小学校は、豊橋市教育委員会、豊橋市現職委員会から「家庭教育」の研究委嘱を受け、古き良き時代の残る校区の風土に支えられながら、家庭教育支援を研究し、「つながる」をキーワードに、学校文化の創造に取り組んできた。3年の期間を経て、平成25年度10月実践研究を発表した。

こうした流れの中で、持続可能な発展のための教育に視点を向けたとき、これまで同様、学校と地域や家庭とつなぐ取り組みを継続、発展させることによって、郷土愛をもち、近い将来地域に貢献できる子どもを育成できると考えた。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本プロジェクトは、校区の自然や産業、文化、風土、人とのつながりについて学習を深め、郷土愛をはぐくみ、未来の社会づくりの担い手を育む教育を推進していく。

(1) 子どもが地域とつながる

各学年では、校区とかかわりを強め、郷土愛をはぐくむ実践を、生活科、総合的な学習の各単元で構想する。

校区探検のように校区に直接出向くものもあれば、校区の人を講師として依頼するような、地域の人材とかかわる取り組みもある。また、地域の事業所で体験したり味わったりすることで、人の生きざまにふれたり、郷土のよさを実感したりするものもある。

(2) 親と子がつながる

商店や事業所などで自営業を営む家庭が多い土地柄を生かし、身近に大人の働く姿を感じさせたい。地域に住む、手本になる大人の生き様にふれることで、子どもたちは、地域への誇りをもちつつ、こんな人になりたいと将来への夢、希望をはぐくみ生きていく。

主な取り組み ○ようこそ先輩 ○職業体験

(3) 子と子がつながる

少子化の波は本校校区にも押し寄せている。携帯、パソコン世代の子どもたちは外遊びが減少し、一人遊びが増加し、人と交わること、人とコミュニケーションをとることが不得手になってきた。

そこで、縦割り活動を生かして、年齢を超えて交流する場や場面を創出し、コミュニケーション能力とともに人とかかわる喜びや思いやりをはぐくむとともに、友だちとともに郷土のよさを発見していくようにしたい。

主な取り組み ○縦割り班活動 ○なかよしフェスティバル

(4) 親と親がつながる

子ども同様、親の孤立化も不安視されている。親と親とが手をつなぎ、子育てのことを考えたり、いっしょに行動したりする場をもつことで、親自身が地域のよさやつながりを感じ、我が子だけでなく他人の子にも声をかけたり、注意したりできるようにする。

主な取り組み ○松葉IDOBATA会

(5) 地域が学校とつながる

「子どもは地域の宝」の考えのもと、地域が主体的に動き出し、防災訓練、夏祭り、冬のバザーを実施し、すっかり校区に定着している。子どもたちは積極的に参画し、地域の一員としての自覚を強め、郷土を愛し、校区の一員として動き出せる心を育むと考えている。

主な取り組み ○防災訓練 ○わくわくサマーホリディ ○ふれあい市

Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

松葉小校区は、子どもたちの豊かな学びの宝庫である。

まず、文化面においては、校区の中心にこども未来館や文化財センターが位置し、豊橋市役所、豊橋市美術館、芸術ホールブラットも、行政、教育、文化、芸術が学べる公共施設が隣接している。校区を歩くと、豊橋駅から続く商店や事業所が立ち並ぶ。自営業が多く、そこではたらく人たちの姿をじかに感じることができる。

また、自然環境については、校区の西側に、一級河川豊川が流れている。この豊川は、飲料水や農業用水としてだけでなく、古くは上流との木材や生糸を運搬する重要な水路として、本校区の産業を支えていた。近代化の波が押し寄せ、今は住宅街と変わりつつあるが、人情味あふれる古きよき時代の風景は、今も至る所に残されている。

このように、産業、文化、自然、歴史が凝縮されている本校区ではあるが、そこには郷土を愛し、古き良き時代の風土を重んじる松葉校区に生きる人たちの思いなしには語ることができない。郷土愛に満ちたこの松葉校区の素晴らしさを、下記のような取り組みを通して子どもたちに実感させていく。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年												
2年	校区探検											
3年	校区の事業所調べ			校区の商店調べ			校区の工場調べ					
4年	豊川調べ			校区の方を招いて 1/2成人式に向けて								
5年	米作り	田植え		稲刈り・脱穀		野外活動	収穫祭					
6年	校区防災			校区防災活動	戦争平和について考える							
行事	学校保健委員会						学校保健委員会					
	なかよしフェスティバル			わくわくサマーホリディ			ふれあい市					
	IDOBATA会	ようこそ先輩		IDOBATA会			IDOBATA会					
委員会	たてわり活動の継続											

(1) 子どもが地域とつながる「生活・総合的な学習」

各学年で子どもの発達段階に応じて、郷土愛をはぐくむ単元学習を取り組んだ。

- 1年 家族調べ等、家族を知る活動
- 2年、3年 校区探検、町探検で校区を知る活動
- 4年 豊川の調査活動等、校区の自然を知る活動
- 5年 米作りや職業を学ぶ活動等、校区の人や職業を知る活動
- 6年 戦争遺跡見学や戦争の体験談を聞く等、校区の歴史を知る活動



2年 校区探検 「朝市で買い物体験」



5年 米作り 「稲刈り」

(2) 親と子がつながる「ようこそ先輩」

子どもたちが校区の大人たちから生き方を学び、将来の自分について考えたり、夢を抱いたりする場となった。親子で一緒に地域の方の仕事の話を聞き、郷土愛だけでなく、親子のふれあいや家族の会話が増えた。



「ようこそ先輩」 テニスコーチのお話

(3) 子と子がつながる「縦割り活動なかよしフェスティバル」

本校は、1年から6年までの子どもで構成される縦割り班の活動を重要視している。年間を通して、縦割り班で、遊びや活動を計画し取り組んでいる。

特にそのメイン行事であるなかよしフェスティバルは、縦割り班で豊川に出向き、シジミ取りや砂の造形等で楽しく交流をしている。交流を通して、子ども同士のつながりが地域に広がっている。



松葉なかよしフェスティバル

(4) 親と親がつながる「松葉I DOBATA会」

同じ子育ての仲間として親と親とが、車座になって、子育てについての意見交換をしあっている。親と親とがつながることで、地域のつながりが強固になり、大人も郷土愛をはぐくんでいる。



松葉I DOBATA会

(5) 地域が学校とつながる「校区防災活動」

校区防災訓練は、2002年に始まった。来たるべき大地震や津波の襲来に備えて、自治会が中心となり、地域住民が一丸となり、校区防災について考え、行動を起こしている。

有事の際には、学校は避難所となるが、高学年の子どもたちは、地域の一員として、積極的に貢献していこうと学習を積み上げている。

そのほかに「わくわくサマーホリディ」「ふれあい市」がある。



校区防災訓練

Type of materials to be used (使用する教材)

- 「小学校 キャリア教育の手引き」文部科学省2010
- 「かがやくとよはし」平成 年4月1日発行 豊橋市立小学校社会科副読本研修委員会
発行 豊橋市教育委員会
- 社会科副読本「まつば」昭和62年3月発行 豊橋市立松葉小学校

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

- 教師は、日常の生活の中で、児童の態度、姿勢を観察する。また、学習記録、生活日記の記述により評価するとともに、不定期であるが学級たよりを発行し、保護者からの反響を確かめる。
- 学習や活動のまとめとして授業参観や実践発表会の子どもの姿を観察し、評価する。

- 行事後の「アンケート」や学校評価のための教師・児童・保護者対象のアンケートを実施し、「地域とともに歩む教育活動の推進」の成果を検証する。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) 校長

Institution's name (学校名)

豊橋市立松葉小学校